



目次

日本語上達のために(41)

カチニュース(帰任の挨拶 / 着任の挨拶)

カチニュース(お知らせ)

日本語 **上達** のために(41)

あなたのこと、一生懸命追いかけます!

Let's シャドーイング

みなさんは、日本語を上手に話すために、日ごろ、どのような練習をしていますか? 日本語が上手になりたい! 日本人のような自然な日本語を話したい! と思ったことはありませんか? 今回は、「シャドーイング(Shadowing)」という練習法についてご紹介します。

シャドーイングとは

シャドーイングとは、「聞こえてくるスピーチに対してほぼ同時あるいは一定の間を置いてそのスピーチと同じ発話を口頭で再生する行為」(玉井1997)と定義されていますが、シャドーイング(Shadowing)という名前の通り、聞こえてくる音声を影(Shadow)のようにくっついて追っていきながら、出来るだけ正確に声に出して言う練習です。シャドーイングは従来、通訳士を訓練する練習法として古くか

ら使われていますが、最近では英語や日本語など、外国語の学習者にとっても有効な練習法の一つとして注目されています。似たような練習法に「リピーティング(リピート)」がありますが、シャドーイングとの違いは以下のように区別できます。

リピーティング

音声を聞き終わってから、ある程度のポーズ(間)の後、同じ発話を再生する練習法

A これから日本語で話しましょう。

《ポーズ》

B これから日本語で話しましょう。

シャドーイング

音声を聞きながらほぼ同時あるいは一定の間を置いて、同じ発話を再生する練習法

A これから日本語で話しましょう。

B これから日本語で話しましょう。



また、このシャドーイングは、挨拶程度の短い文から対話、ニュースなどの長い文まで、レベルに合わせて音声を選択することができ、どのレベルの学習者でも始めることができる高い効果のある練習法であると言われています。

シャドーイングの効果

それでは、このシャドーイングがなぜ外国語の学習に役立つのでしょうか。齊藤他(2006)は、シャドーイング練習の効果として、以下の3点を挙げています。

1 高速で日本語を処理し、日本語が「使える」ようになる

シャドーイングは、インプット(入力)とアウトプット(出力)をほぼ同時に行う練習方法であるため、負荷の高い練習方法と言えます。しかし、このような練習を短い時間でも毎日繰り返すことで、少しずつ頭の中で速く日本語を処理できるようになり、日本語が「使える」という現象につながります。

2 自然なイントネーションが身につく

シャドーイングは流れてくる音声と同じように声に出して練習するため、これを繰り返すことがイントネーションの改善につながります。そして、最終的には意識しなくても日本語の自然なイントネーションを取り入れることができるようになり、日本人の話すようなイントネーションが自動的に身につきます。

3 自然な受け答えが口から出てくる

シャドーイングを毎日繰り返し練習すると、無意識のうち頭にの中に日本語の語彙や表現、会話が蓄積されます。そして、日本語で話す場面でこれらの語彙や表現が登場すると、頭で考えなくても日本語が自動的に口から出てきて、相手の話に自然に受け答えすることができるようになります。

筆者は、韓国語を最初、本で勉強していました。文法はある程度理解できる、決まった表現はいくつか言えるけど、

教科書で習ったままの堅い韓国語。どうにか自然に韓国語を話すことはできないだろうか...韓国語学習が低迷していたとき、ストレスを解消させるために見始めた「韓国ドラマ」がこの問題を解決してくれました。

韓国語シャドーイング体験

筆者は、勉強の合間に韓国のドラマを見るようになったのですが、ただ単に見るだけではなく、少し変わった方法で見っていました。

まず、たくさんの韓国ドラマを見るのではなく、あるドラマを一つ決めて、その一話分を最低5回ずつ見聞きます。この「見聞きする」を次のような2ステップで行い、その間に「確認ステップ」を交えながら練習します。すると不思議なことに、これを繰り返すことで自然に台詞を暗記してしまい、最後にはほぼ、ドラマから流れてくる音声と同時に台詞を自然に追いかけて行くことができるようになります。

ステップ1

最初の1、2回は、日本語の字幕付きのドラマを見て、ストーリーの流れや韓国語が日本語でどう表現されているのか、全体的に把握する。

◆ 確認ステップ ◆



音声を聞いても韓国語の意味が分からない、または忘れてしまった場合は、再度ドラマを見て、その韓国語の表現と日本語字幕を照らし合わせて確認する。

ステップ2

3回目以降(最低でも5回)は、そのドラマを音声テープに録音して繰り返し聞き、シチュエーションを思い出しながら、韓国語の台詞をシャドーイングして練習する。

この練習をした後、韓国の友達と韓国語で話をする中で、ドラマで聞いた表現が友達の話に出てきて聞き取れたり、ドラマで覚えた表現が自然に口から出てきたりと、身をもって効果を感じることができ、とても嬉しかったことを思い出します。そしてこのような経験が、私の韓国語学習のモチベーションを上げてくれ、もっと色々な表現を知りたいという気持ちになりました。

ドラマに限らず、音声であれば何でもシャドーイングの材料にすることができます。例えば、短いものであれば、テレビCMのワンフレーズを追いかける、または、ドラマの好きな役者の台詞だけを追いかける、トーク番組の話し手または聞き手の一方の発話だけを追いかけてみるなど、難しいニュースや教科書のCDでなくとも、身近にシャドーイングの材料を見つけて追いかけることができます。



「上手に話す」ためには、 まず「しっかり聞くこと」から

しかし、音声を「追いかけて話す」ためには、まずその音声が聞き取れ、意味を理解することが出来なくてはなりません。

日本のエッセイストである阿川佐和子さんの書かれたエッセイ『聞く力』では、これまで1000人を超す著名人との対談を通して感じた「聞くこと」へのヒントがいくつか挙げられており、その中のエピソードで、初期の対談の失敗例が紹介されています。最初、対談に慣れていなかった頃は、前もって質問項目や順序を全て準備したものの、そのことが常に頭から離れず、機械的にしか質問できなかったこと、そしてそのせいで相手の話がほとんど耳に入っていないために、話がかみ合わなかったことが書かれています。

これは、日本語を含む外国語学習者にも類似するものがあると思います。例えば、自分が学習している言語のネイティブスピーカーを目の前にした場合、「何と話したらいいのか...」「相手の質問に何と答えなければならないのか...」とパニックに陥りがちです。このようなパニックに

ならないようにするための練習が、「聞いて話す」を繰り返すシャドーイングなのです。シャドーイングでは、流れてくる音声をほぼ同時に再生しなくてはならないため、音声の意味や内容をしっかり把握した上で練習をしなくてはなりません。もし、音声の意味や内容が分からずにシャドーイングをしても、しっかり聞き取ることが出来ないため、所々しか追いかけれなかったり、あるいはタイミングを逃して追いかけることすらできません。「意味を理解してしっかり聞き取る」練習を重ねることで、パニックにならず、相手の話を聞いて意味を考えながら、スムーズに受け答えができるようになるのです。



意外と重要な「イントネーション」

皆さんは、日本語を話すときにイントネーションを意識して話しますか？イントネーションとは、連続した言葉や文の中の音の高低のことで、単語中の音の高低を表すのがアクセントです。元NHKアナウンサーの高梨敬一郎さんは、ご自身の著書『社会人として必要な「聞く力・話す力」の高め方』の中で次の例を出して、イントネーションの重要性を主張されています。

デパートの館内放送がお客様に伝わらないという友人の依頼で、同じ内容の案内を、その館内放送の友人と、NHKの女性アナウンサーのイントネーションとで実験し、「今、放送で何と言いましたか」とたずねました。この実験を100人ずつ行った結果、館内放送の友人のイントネーションでは21人の人が正解だったのに対し、女性アナウンサーのイントネーションでは81人が案内の内容を正確に答えていました。高梨さんは、「イントネーションは、言葉のつながりを正確に伝える手段」であるとし、意味のつながりと関係なく上げ下げしたり、意味の続いている言葉と言葉の間を区切ったりすると、話が伝わりにくくなると説明しています。つまり、正確なイントネーションは、聞き手に情報が正しく伝わることに大きく影響を及ぼすということなのです。



継続と繰り返しは、必ず力なり!

「継続は力なり」という日本のことわざがあります。小さなことでも地道に努力を続けていけば、その努力が積みあがって力になるという意味です。何事も上手になりたいければ継続、つまり続けて練習を行うことが大切です。

例えば、「シャドーイングの練習を二日間しなかったので、今日は30分練習した。」という声を聞くことができますが、それでは意味がありません。毎日10分、いえ、5分でもいいですから、毎日続けることに意味がありますのでやってみてください。毎日音声に触れ、それを口から発することで、無意識のうちに日本語の表現やイントネーションが身に付き、練習の効果が現れてくるのです。

更に、繰り返し練習することも非常に大切なポイントです。1回目は音を逃したり、追いかけるのがやっとだったのが、何度も繰り返し練習することで段々音に慣れ、スラスラ音を追いかけて行けるようになり、やがてその音声は自分のものになるのです。

たやすいことではありませんが、継続すること、そして繰り返すことは、必ず皆さんの大きな力になり、日本語を上手に話すことへつながります。まずは1フレーズ、音声を聞いて追いかけてみるころから始めてみませんか？

ソウル女子大学講師 | **迫田 亜希子**

●【参考サイト】

- 阿川佐和子『聞く力 心を開く35のヒント』文春新書
- 門田修平『シャドーイングと音読の科学』コスモピア
- 齊藤仁志・吉本恵子・深澤道子・小野田知子・酒井理恵子『シャドーイング日本語を話そう！初～中級編』くろしお出版
- 齊藤仁志・深澤道子・酒井理恵子・中村雅子・吉本恵子『シャドーイング日本語を話そう！中～上級編』くろしお出版
- 高梨敬一郎『社会人として必要な「聞く力・話す力」の高め方』こう書房
- 玉井建『シャドーイング効果と聴解プロセスにおける位置づけ』『時事英語学研究』36, 日本時事英語学会



【帰任のあいさつ】

『カチの声』の読者のみなさん、いつもご愛読いただきありがとうございます。先日、3年間の任期を終え、日本に帰任しました。

私が主に担当した業務は、日本語講座でした。この3年間、外へ出ていく機会はほとんどありませんでしたが、本当に多くの方との出会いや発見があり、素晴らしい経験ができて、とても大切にしたい思い出ができました。

初めは、センターにいらっしゃる受講生の皆さんのレベルの高さにただ驚くばかりでしたが、ここ韓国でしかできない経験ができて、素晴らしい3年になりました。

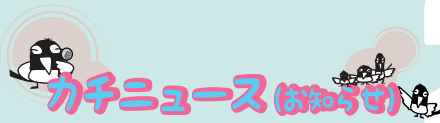
久しぶりに暮らす大阪では、3年前には考えられなかったほど、「韓国」や「韓国の方」の存在感があるように感じます。これからも韓国とつながりが持っていけたらと思っています。

皆さんも、今後も何らかの形で日本語や日本文化に興味を持ってくださるとうれしく思います。3年間、本当にありがとうございました。

国際交流基金ソウル日本文化センター
元・日本語教育アドバイザー



かき うちょう た
柿内良太



【着任のあいさつ】

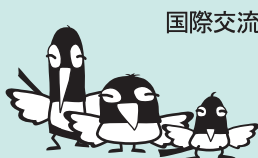
2

はじめまして。柿内良太日本語教育アドバイザーの
後任として1月に着任いたしました田中綾紗です。日
本では専門学校などで日本語の授業を担当し、一昨
年まではブルガリアの大学に赴任しておりました。

学生の頃歌手のBoAさんが好きになったことがき
っかけで韓国語に興味を持ち、大学在学中にはソ
ウルの大学に短期留学しておりました。その後韓国・
韓国語とは縁遠くなってしまっていたため、今回のご
縁に驚きつつもとてもうれしく思っております。

ソウル日本文化センターでは、主に日本語講座を
担当致します。韓国の日本語学習者の皆さんや先生
方は世界から見ても非常にレベルが高いと聞いてお
り、そういった皆さんの中で韓国の日本語教育に関
われることをうれしく思うと共に、身の引き締まる思い
がしております。

何かの折に皆さんにお会いできることを楽しみにして
おります。どうぞよろしくお願ひ致します。



国際交流基金ソウル日本文化センター
日本語教育アドバイザー

たなか あやさ
田中 綾紗

3

【3月からのサロンのお知らせ】

国際交流基金ソウル日本文化センターでは、日本語教
育に携わっている方を対象に、月1回第1土曜日(第1土曜
日が公休日の場合は第2土曜日)に日本語教師サロンを
開いています。日本語教師になってまだ日の浅い方、こ
れから日本語を教える方はもちろん、自分の授業を見直
したい方もぜひご参加ください。教え方の向上を図ること
と併せて、日本語でのコミュニケーションを目指した授業、
さらにはことばや文化を学ぶことが楽しくなる授業づくりに
ついて、一緒に考えていきましょう。

みなさまのご参加をお待ちしております！

2018年 3月～6月 サロン日程予定

毎月第1土曜日 ①14:30～16:30

場所 ソウル日本文化センター2Fセミナー室



もっと詳しい情報はこちらのページをご参考ください。

▶ http://www.jpff.or.kr/index/s6/s6_1.php?wr_id=806